

ピックアップ

木造設計アドバイザー

「木造設計アドバイザー派遣事業」が、これまで熊本県内5件の公共施設に適用されている。このほど完成・供用した県立岱志高校工芸実習棟で、その成果が披露された。全ての物件にアドバイザーとして関わったウッドディファームの坂田雅孝社長は、木造建築の更なる普及を睨んでいる。

「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」を施行したのが平成22年。木材の利用の促進に関する法 熊本県もこれを受け23年に「熊



株式会社 坂田 雅孝 社長

本県公共施設・公共工事木材利用推進基本方針」を策定し、公共性の高い建築物や土木工事での木材利用の目標を定めた。

県が基本方針を定めた頃に、アドバイザーの話がありました。2年の下積みがあつて熊本県木材協会連合会（県木連）の推薦もありアドバイザー派遣制度が実現したんです。背景には、公共部材、例えばコンクリートとか、鉄筋には物価版などの資料があり

ますよね。木材は住宅向けがほとんどなので資料がないんです。そうすると建築コストが不透明になります。その結果、積算も構造計算も容易ではありませんが、だから木を把握する専門家が重要とされてきました。木の知識は独学による。もちろん日本木材加工技術協会認定の木材乾燥士・接着士、大断



木造建築アドバイザー派遣により県内で初めて完成・供用した県立岱志高校工芸実習棟

モ

木造設計アドバイザー派遣事業 熊本県と熊本県建築住宅センターが協働で平成25年度に創設。県内自治体が発注する木造建築物の設計に対し、地産地消を念頭に木材流通などの実態を踏まえた専門家を派遣。質の高い木造建築物を整備している。

ットワークが活用できます。た言っている」

だビジネスとは区別しておは、設計者にお願ひすること、県木連を通じて透明性については、木のモジュール（尺度）をなげていきます。日本農林規格を考慮しないと部材が（JAS）を活用するのも公共です。これを考慮しないと部材が部材としての品質を示すことムダになったり、強度が足らなと木材を安定供給するため。民かたりコストアップの要因間住宅なら経験や勘で木材を選べますが、公共施設は根拠が必要になりますから。さらにメンテナンスを考へなければなりません。木の性質を知って適材適所に使う。正しい知識で施工さえすれば鉄骨や鉄筋コンクリー

面集材管理士などの資格を持つ。木を知りたい活動の中で自然と大学や公的な研究機関、市場関係者とも深いつながりが生まれている。

発注者の情報をいち早くキヤッチすることで、私が持つネ

「県産材利用での樹種選定」素材・製材・乾燥工程の確認「JAS材の選別」などについて助

正しい知識で木の良さをわかってほしい